

国語科授業案

日時 平成27年6月18日(木)1校時
生徒 2年B組 男子17名 女子16名
指導者 太田 諭
授業場 2年B組教室

1 単元名 「近代の短歌」

～近代を代表する歌人の歌風を見極め、お気に入りの短歌を見つけよう～

2 単元について

(1) 教材観

現在の義務教育における国語科教育を取り巻く状況は、大きな変化のうねりの中にある。旧来の講義型授業への反省から、言語活動を通して指導することが重視されているが、言語活動が目的化してしまうことの危険性も指摘されている。また、国際的な学力調査や、全国学力・学習状況調査の結果からは、現在の児童生徒の課題として、「自分の意見を確かな根拠に基づいて表現すること」が挙げられ、彼らが21世紀を生きていく上で、そうした力を伸長することが求められている。同時に、日本の伝統文化に対する親しみと誇りをもち、文化のよき継承者となることも求められている。現在これらのことが重視される背景には頷けるものがある。

本単元の教材となる「短歌」は、5, 7, 5, 7, 7のわずか31音の中に歌人の想いを凝縮させる、日本の伝統的な定型詩である。「短歌」の形式は、現存する日本最古の歌集である『万葉集』にも見ることができ、我が国の歴史上極めて長く続いている文化の一つといえる。本単元には、上代から続いてきた貴族中心の「和歌」としての「短歌」ではなく、自由と個性を求め「近代短歌」が確立されたとされる明治期に活躍した4人の歌人の短歌が所収されている。その4人とは、斎藤茂吉、石川啄木、与謝野晶子、若山牧水である。彼らはいずれも「近代短歌」における代表的歌人といえ、日本人としてその名と作品に触れずにはいられない存在である。

学習指導要領国語科第2学年における「読むこと」の指導事項は次の5点である。ア抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。イ文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。ウ文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。エ文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつこと。オ多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。これら5点について、適切な言語活動を通して、重点化を図りながら指導していくことが教師には求められている。

授業を行うにあたっては、これら、「現在児童生徒に求められている力」、「教材の価値」、「教師に求められている指導」を考慮する必要がある。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

前述した教材の特性、生徒の実態を踏まえ、本単元では、生徒が文語に対して持っている抵抗感を払拭することを念頭に置きたい。また、短歌の内容を単に「教授」するのではなく、生徒の主体的な活動を通して、生徒自ら内容をつかみ取ることが重要であると考え。

そこで、本単元では、言語活動として「4人の近代を代表する歌人の歌風を見極め、お気に入りの短歌を見つけよう」を設定した。これは、本校国語科の今年度の手だてである。「中心教材から派生

しうる『題材』や『言葉そのもの』を併用または追加して用いる言語活動」を踏まえたものである。

具体的には、前述の4人の近代歌人の短歌を教科書外から選定し、「それぞれの作品が誰の作品であるか」について、教科書にある短歌や作者の略歴から推測していくという活動を設定する。そのことによって、「謎解き」の要素が生まれ、生徒は興味をもって学習活動に取り組むものと考えた。また、その活動を通して、歌人の教科書に所収されている他の作品を詳細に読む必要感が生じると考えた。さらには、文語に対する苦手意識を低減することも意図している。

ただし、1度に4人全員の短歌を推測することは難しいと思われるため、まずは、釧路ゆかりの歌人である「石川啄木」の歌を推測することから始める。これは、釧路にゆかりがあることから、生徒がより身近に感じることができると考えたためである。また、協働・言語化の視点としては、個人としての追究を経て、班で交流を行い、自らの追究活動に対する再検討を行う。

次に、残る3人の歌人について、追究活動を行う。その際にも、個人追究の後に、班による交流を行い、自らの追究活動に対する再検討を行うようにする。最後に、自分が最も共感できる短歌一首について、鑑賞文を書く活動を取り入れる。これらのことによって、自分の考えを根拠に基づいて表現する力を高めたい。

3 単元目標

4人の近代歌人の短歌を推測する活動を通して、

- ・近代の短歌の内容や背景について、興味を持って読むことができるようにする。(関・意・態)
- ・近代の短歌の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができるようにする。また、短歌に表れている歌人のものの見方や感じ方をとらえ、知識や体験と結びつけて、自分の考えを持つことができるようにする。(読む)
- ・文語の内容のあらましを推測することができるようにする。(伝統)

4 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化
ア既存の知識や生活と結びつけて、興味をもって短歌の内容を読み取ろうとしている。	ア作品に描かれている状況や背景について、作品中の表現を根拠としてとらえ、まとめることができている。 イ作品に現れた歌人のものの見方や考え方について、自分の知識や体験を結びつけた鑑賞文を書くことができている。 ウ鑑賞文の交流を通して、自分の見方や考え方を広げることができている。	ア短歌の内容を、文語の意味を推測しながらとらえることができている。

※関連する学習指導要領上の指導事項

読むこと

ア抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。

ウ文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

エ文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつこと。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

ア(イ)古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

5 単元計画(全4時間)

時	学 習 事 項	主な学習活動・ <u>手立て</u>	評 価		
			関	読	伝
1 本 時	●「石川啄木」の短歌を、根拠に基づいて推測する。	○「短歌」とは何かを知る。 ○「石川啄木」の短歌2首を紹介し、釧路にゆかりの歌人であることを知る。	ア	ア	ア

		<p>○単元のねらいを知り、見通しを持つ。</p> <p>○8首の短歌から、「石川啄木」の短歌を、根拠に基づいて推測する。手立て</p> <p>○班で推測したことを交流し、再度検討する。</p> <p>○全体で交流し、自分の根拠の妥当性を振り返る。</p>			
2	●「斎藤茂吉」「若山牧水」「与謝野晶子」の短歌を、根拠に基づいて推測する。	<p>○「斎藤茂吉」,「若山牧水」,「与謝野晶子」の短歌を、根拠に基づいて推測する。手立て</p> <p>○について、書かれた状況や心情を、記述を根拠としてとらえる。</p>	ア	ア	ア
3	●自分が最も共感できる短歌についての鑑賞文を書く。	<p>○教科書の短歌及びこれまでに触れた短歌から、自分が最も共感できる短歌を選ぶ。</p> <p>○条件に従って鑑賞文を書く。</p>		イ	
4	●鑑賞文を交流し、多様な考えがあることを知り、自分のものの見方、考え方を広げる。	<p>○鑑賞文を交流する。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>		ウ	

6 本時案（1 / 4 時間目）

(1) 本時の目標

- ①石川啄木の短歌を見極める活動に積極的に取り組むことができる。(関・意・態)
- ②既存の知識と短歌の特徴、歌人の略歴などから、石川啄木の短歌について、根拠に基づいて推測することができる。
- ③短歌の内容について、そのあらましをとらえることができる。(伝統)

(2) 本時の展開

(○…発問, △…補助発問, □…指示・説明)

主な学習活動	教師の働きかけ・ 手立て	留意点・評価
1 「近代」の概念について予想することができる。	<p>○「近代」とはいつのことでしょう。</p> <p>□一般的に、明治維新から太平洋戦争終結までを「近代」といいます。</p>	<p>・ワークシート①配布</p>
2 「短歌」について知っていること（5・7・5・7・7の形式）を記述することができる。	<p>○「短歌」についてどんなことを知っていますか。</p> <p>□今日から「近代の短歌」について学習をします。</p>	<p>【WS】</p>
近代を代表する歌人の歌風を見極め、お気に入りの短歌を見つけよう		
3 「石川啄木」について知っていることを発表することができる。 歌人・釧路にいた など。	<p>○「石川啄木」について何か知っていることはありますか。</p> <p>□啄木の略歴を紹介します。</p>	<p>【WS】</p> <p>・略歴を配付</p>
4 啄木の釧路で詠んだ短歌2首から、啄木の釧路に対する印象が決してよいものでなかったということを予想する	<p>○次の2首から、啄木の釧路に対する印象がどんなものであったことがわかりますか。</p>	<p>【WS】</p>

ことができる。

- ①さいはての 駅に下り立ち 雪あかり
さびしき町に あゆみ入りにき
- ②あはれかの 国のはてにて 酒のみき
かなしみの滓（おり）を 啜（すす）
るごとくに 手だて

「石川啄木」の短歌を見極めよう。

5 8首の中から「石川啄木」の短歌2首を、根拠をもとに自分なりに推測することができる。

○ここに、「石川啄木」「斎藤茂吉」「若山牧水」「与謝野晶子」の短歌が2首ずつあります。石川啄木の短歌2首はどれでしょう。

- A 旅びとは ふるきみやこの 月の夜の 寺の木の間に 飽かずさまよふ 牧水
- B 清水へ 祇園をよぎる 花月夜 こよひ逢ふ人 みな美しき 晶子
- C こころよく 我にはたらく 仕事あれ それを仕遂げて 死なむと思ふ 啄木
- D わが母を 焼かねばならぬ 火を持てり 天つ空には 見るものもなし 茂吉
- E 誰が見ても われをなつかしく なるごとき 長き手紙を 書きたき夕 啄木
- F ふるさとの 尾鈴の山の かなしさよ 秋もかすみの たなびきて居り 牧水
- G 海恋し 潮の遠鳴り かぞへては 少女となりし 父母の家 晶子
- H ひた走る わが道暗し しんしんと 懐へかねたる わが道くらし 茂吉

手だて

ワークシート
②配布
机間指導
※10分間保証
【WS】

6 班で交流し、自分が推測したものとの根拠の妥当性について検討することができる

□班で交流し、自分が推測したものとの根拠が適切なのか、確かめてみましょう。

※班交流の約束にしたがう。
※8分間保証

7 自分の最終判断を記述し、発表することができる。

○再度聞きます。石川啄木の短歌はどれだと考えますか。

【挙手・発言】

8 自分が書いた根拠が妥当だったかについて振り返ることができる。

□あなたの書いた根拠がどのくらい妥当なものだったか、振り返ってみましょう。

【WS】

9 次時の予告を聞き、見通しをもつことができる。

□次回は、残る3人の作品を見極めましょう。

【WS】

